

鉢形城歴史館開館5周年記念特別展

# 北条安房守と真田安房守

平成十六年の秋にオープンした鉢形城公園・鉢形城歴史館は、10月に開園・開館5周年を迎えます。

鉢形城歴史館では記念の特別展を予定しているため、役場の歴史館の専属レポーター、姫子さんにさっそく取材してもらいました。歴史館を案内してくれるのは、展示を担当した城山さんです。



姫子さん



城山さん

## 特別展のテーマ

**城山** こんにちは。城山さん。  
**姫子** おつ。姫子さんじゃないですか。久しぶりですね。五年ぶりかな？

**城山** お久しぶりです。鉢形城歴史館で開館5周年記念の特別展が開催されると聞いたので、今日は取材にきました。

**姫子** ありがとうございます。まだ準備中ですが、姫子さんには特別にお話ししましょう。

**城山** 早耳ですね、姫子さん。まだ準備中ですが、姫子さんには特別にお話ししましょう。  
**姫子** ありがとうございます。さっそくですが、今回の特別展のテーマは何ですか？  
**城山** 今回の特別展は「北条安房守と真田安房守」と題して開催します。北条安房守は鉢形城主の北条氏邦、

使用されました。

**姫子** 朝廷は二人も安房守を任命したということですか？

**城山** いえ、ちがいます。戦国時代になつて室町幕府の権力が衰えると、武家が叙位や任官を朝廷と直接交渉したり、朝廷から正式な任命を受けないまま自称したりするケースが増

## 【展示構成と主な展示品】

### 一、拡大する北条氏領国

- 上野・信濃への進出 —
- 北条氏政像 早雲寺蔵
- 北条氏直像 早雲寺蔵
- 鉄黒漆塗四十八間筋兜鉢 神奈川県立歴史博物館蔵
- 三十二間筋兜（伝北条氏邦所用） 榛神社蔵／埼玉県指定文化財

### 二、台頭する真田昌幸

- 在地領主から大名へ —
- 啄木系威伊予札胴具足（伝真田昌幸所用） 上田市立博物館保管
- 韋革製六連銭文旗印 上田市立博物館保管
- 刀（無銘・三原／伝真田昌幸所用） 真田宝物館蔵／長野県宝
- 武田勝頼条目（真田家文書） 真田宝物館蔵／長野県宝

### 三、二人の安房守

- 北条安房守と真田安房守 —
- 鰐口（永禄六年銘） 正円寺蔵／美里町指定文化財
- 北条氏邦書状（正村文書） 上田市立博物館蔵
- 北条家印判状（根岸文書） 埼玉県立文書館蔵
- 猪俣邦憲判物（恩田文書） 真田宝物館蔵／長野県宝
- 上杉景勝書状（矢沢家文書） 真田宝物館蔵

※資料保護のため、会期中に一部展示替えを行います。



啄木系威伊予札胴具足（伝真田昌幸所用）

真田安房守は信州上田城主の真田昌幸のことです。

**城山** 安房守が二人いたのですね。  
**姫子** そうなのです。北条氏邦の鉢形城は、今から遡ること約四二〇年前の天正十八年（一五九〇）に豊臣秀吉の小田原征伐に伴って開城しています。この時、秀吉が関東へ襲来する直接の契機となったのが、真田昌幸の領する上野沼田領の名胡桃城を、氏邦の重臣猪俣邦憲が秀吉の命令に違反して攻め取ったという事件だったのです。

**城山** 豊臣秀吉の小田原征伐といえば、日本史上の重大事件ですね。  
**姫子** そうですね。北条氏滅亡の引き金になったそんな重大事件の当事者が、二人とも同じ「安房守」の受領名だったなんて、偶然かもしれません。それが、不思議だと思いませんか。それでこのテーマで展示ができないものかと思ったのです。

**城山** えました。そして、戦国大名はその領国の支配のために自ら受領を名乗り、また武功のあった家臣などに恩賞として官名を与えるということをはじめたのです。織田信長が初期のころに名乗った「上総介」も信長の自称だったと言われています。「上総（千葉県中央部）、上野（群馬県）、常陸（茨城県）」の「守」は、親王が任命されることになっていたもので、実質的な最高位は「介」。「守」いうことから安房守が二人存在するので、つまり氏邦、昌幸の「安房守」も自称の可能性が高いわけです。もちろん、氏邦や昌幸が安房国を領有したという事実はありません。

**姫子** 自称とはいえ、互いに争う二人が同じ安房守だなんて本当に不思議ですね。

## 展示構成

**城山** 開館5周年を記念した特別展ということで今回もたくさんの所蔵者の方々にご協力いただきました。第一部「拡大する北条氏領国」、第二部「台頭する真田昌幸」、第三部「二人の安房守」の三部で構成しています。

第一部では、北条氏ゆかりの品々でその勢力が上野・信濃へ広がっていく様子を展覧します。北条家当主、氏政・氏直父子の肖像画や北条氏の

**城山** 受領とは、古代律令制の地方行政単位である「国」の責任者、つまり「国司」のことです。国司は四等官といって、長官である「守」を筆頭に、次官である「介」、補佐官の「掾」、「目」がいて、長官の国司が交代するとき前任者が事務を引き継いだことを証明する文書（解由状）を後任者から受領したことが名前の起りです。つまり「安房守」は本来、安房国（今の千葉県南部）の行政庁長官の意味なのです。

**城山** 受領とは、古代律令制の地方行政単位である「国」の責任者、つまり「国司」のことです。国司は四等官といって、長官である「守」を筆頭に、次官である「介」、補佐官の「掾」、「目」がいて、長官の国司が交代するとき前任者が事務を引き継いだことを証明する文書（解由状）を後任者から受領したことが名前の起りです。つまり「安房守」は本来、安房国（今の千葉県南部）の行政庁長官の意味なのです。

**城山** 受領とは、古代律令制の地方行政単位である「国」の責任者、つまり「国司」のことです。国司は四等官といって、長官である「守」を筆頭に、次官である「介」、補佐官の「掾」、「目」がいて、長官の国司が交代するとき前任者が事務を引き継いだことを証明する文書（解由状）を後任者から受領したことが名前の起りです。つまり「安房守」は本来、安房国（今の千葉県南部）の行政庁長官の意味なのです。

**城山** 第二部は、一介の在地領主から大名の地位にまで上りつめた真田昌幸とその一族ゆかりの工芸品を中心に展示します。特に昌幸の所用と伝わる啄木系威伊予札胴具足は、佩楯に真田氏の定紋である六連銭紋を大きく描き出して見応えがあると思います。また無銘ですが、昌幸が秀吉から拝領したという三原の刀は長野県宝です。真田氏は大名として幕末まで存続したので貴重な遺品がたくさん伝えられているのです。

**城山** 長野県宝といえば、真田家文書の武田勝頼条目にも注目です。これは勝頼が沼田領の支配を、当時は勝頼の家臣だった昌幸に指令したものです。昌幸はこの条目を根拠として沼田を領有しました。それとこの条目には、北条方の沼田城将だった藤田信吉が、武田方に寝返った痕跡をみることができるとのことです。

**城山** 長野県宝といえば、真田家文書の武田勝頼条目にも注目です。これは勝頼が沼田領の支配を、当時は勝頼の家臣だった昌幸に指令したものです。昌幸はこの条目を根拠として沼田を領有しました。それとこの条目には、北条方の沼田城将だった藤田信吉が、武田方に寝返った痕跡をみることができるとのことです。  
**姫子** 信吉は氏邦の義理の弟ですね。